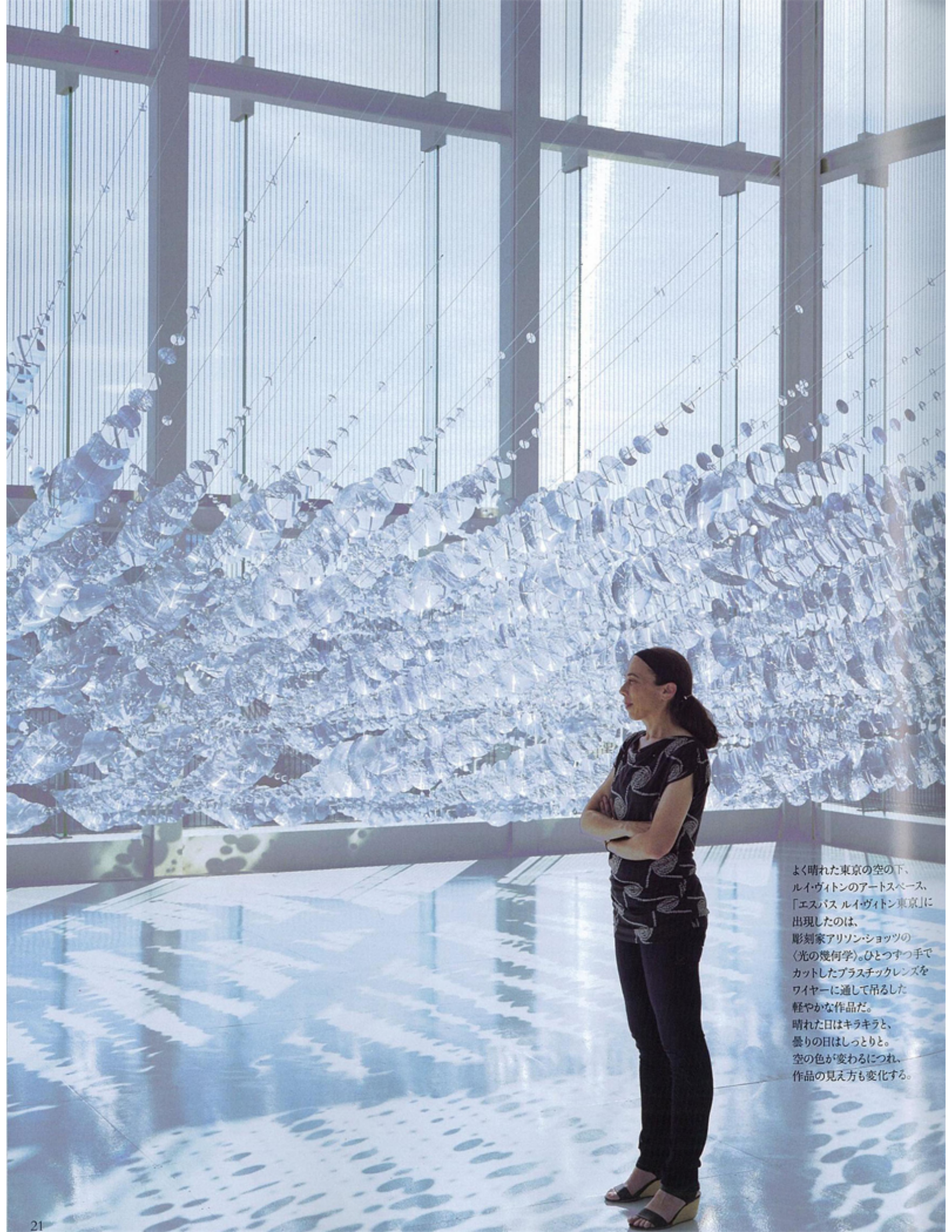




五感で楽しむ、 光の芸術

女性アーティストが誘うアート散歩

この秋、日本の美しい光、を体感しに出かけてみませんか？都会の光、島の光。こもれ日のきらめき、降り注ぐ月あかり——。
和樂が注目したのは、世界的な女性作家4人による光のアート。音楽のように光を浴び、ダンスのように光と戯れる、そんな至福の小旅行へ。
撮影/甲斐裕司(P20-23) 構成/高木史郎(本誌)、輪湖雅江



よく晴れた東京の空の下、
ルイ・ヴィトンのアートスペース、
「エスパス ルイ・ヴィトン東京」に
出現したのは、
彫刻家アリソン・ショッツの
〈光の幾何学〉。ひとつずつ手で
カットしたプラスチックレンズを
ワイヤーに通して吊るした
軽やかな作品だ。
晴れた日はキラキラと、
曇りの日はしっとり。
空の色が変わるにつれ、
作品の見え方も変化する。

彫刻家

アリソン・ショッツ

Alyson Shotz

エスパス

ルイ・ヴィトン東京

「GEOMETRY OF LIGHT

— 光の幾何学 —

「見て! なんて美しい光。影まで輝いているようじゃない?」

子供のように目をキラキラさせて自身の作品を指差したのは、NYで活躍する女性彫刻家、アリソン・ショッツです。指差す先を見れば、まるで光の粒でつくったハンモックのような作品と、床の上できらめく水玉模様の影。

東京・青山のアートスペース「エスパス ルイ・ヴィトン東京」には、アリソンがこの空間のために製作した光のアートが6点展示されています。メイン作品となる〈光の幾何学〉(前ページ)は、天井高8.45mもの大空間に、プラスチックレンズを通したワイヤーを吊るしたもの。ガラス張りの窓から降り注ぐ光が、空の色や風景をレンズの表面に映し込み、きらめく小世界を生み出しているのです。

「晴れた日には青空を映し、夕暮れ時には作品全体がオレンジ色に染まります。光は一瞬のもの。ここに15分居るだけで、作品の印象がどんどん変わるんですよ……」

「Wow!」とアリソンが歓声をあげたのはその瞬間。流麗なラインを描くオブジェ(左ページ)の足元に、七色の美しい影が現れた!

「日時計みたい。こんなに美しい光景が生まれるなんて、私も想像していませんでした(笑)。作品を通して、太陽の存在を感じますね」

今つかまえないと2度と出会えぬ光を求めて、何度でも訪れたいアートスポットです。

エスパス ルイ・ヴィトン東京

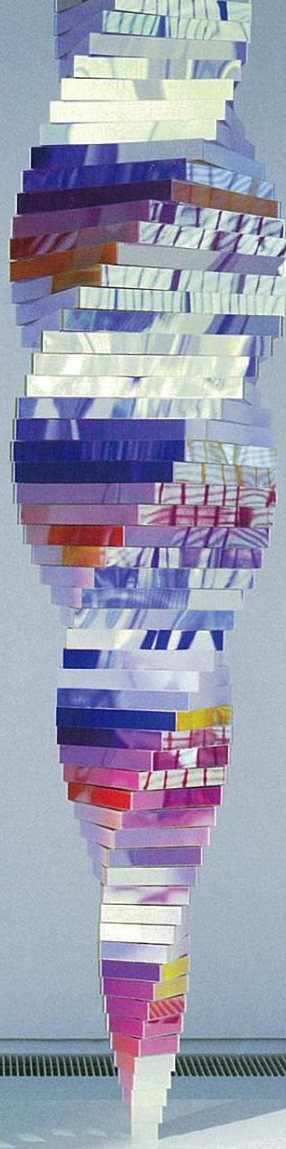
アリソン・ショッツ日本初の個展

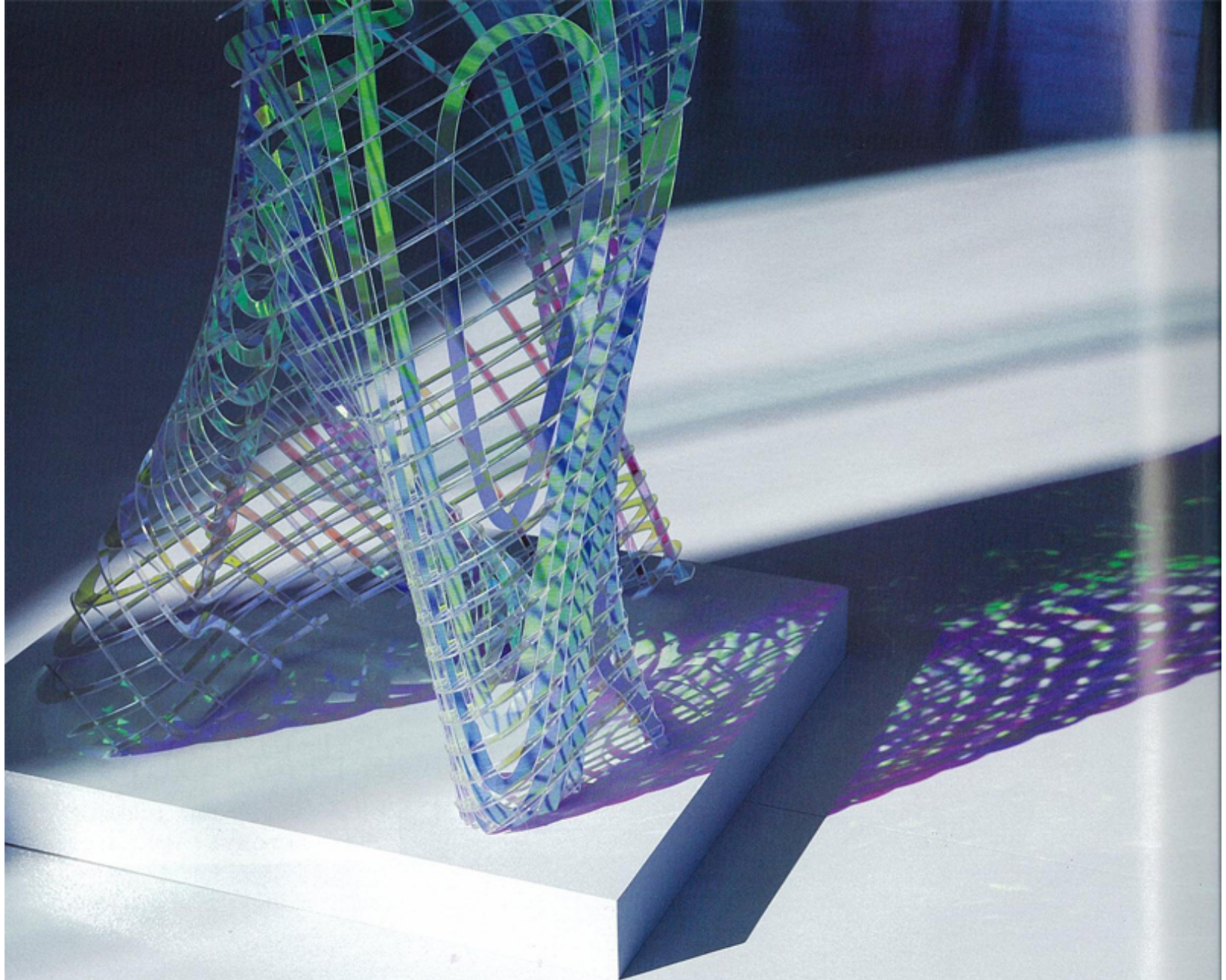
「GEOMETRY OF LIGHT by Alyson Shotz」は、立体作品4点と大型プリント作品、アニメーションで構成される。展示中〜2011年12月25日(日)

東京都渋谷区神宮前5-7-5 ルイ・ヴィトン表参道ビル7階

☎03-5766-1094 12時〜20時 展覧会中は無休

入場料無料 <http://espacelouisvuitontokyo.com/>





右ページ/二色性のアクリルとアルミニウムの立体作品
(Diffraction Spiral)。
足元の床にうっすら光の渦が
浮かびあがっているのは、
この日、この時間、この天気による
光が生み出したミラクルな光景。
左/ドローイングと立体の中間的な
オブジェとしてつくられた
(Transitional Object(Figure 1))。
こちらにも美しい影が出現。
「製作時にある程度は
想像していましたが、
こういう光のシーンは予想外」
とアリソンも大喜び。

ありそんしょつ
1964年生まれ。NYを拠点に
活動する彫刻家。
レンズやピアノ線、アクリル板など
多彩な素材をボーダレスに
使った作品は、
グッゲンハイム美術館などにも展示。
日本で彼女の作品が
正式発表されるのは
今回の展示が初めてとなる。